

「危険予知」への応募ありがとうございます

2015.4.23

京大病院医療安全情報65

【平成27年度医療安全活動目標】

- ① 左右・部位確認強化
- ② 検査結果の患者への説明

医療者が患者と向き合う際には、自分の右側が患者にとっての左側になるため、医療者にとって、左右間違いは最も多い誤認のひとつです。

想定される医療事故

- 左右を間違えて点眼を実施
- 左右を間違えて、エックス線撮影を実施

眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、歯科口腔外科はハイリスク診療科です。

→患者と一緒に確認することでミスを防ぐことができます。

検査結果が正常であっても患者にきちんと説明する習慣があれば、医療事故を防ぐことができます。

想定される医療事故

- 医師がうっかりと検査結果を見落として伝えない
- 検査結果を説明するための診療予約を入れ忘れ、患者も来院しない

→いつも結果を説明していれば、仮に医師が結果を確認し忘れても、患者が指摘してくれるかもしれません。

前年度（平成26年度）は

「確認行動」「コミュニケーション」

を安全管理活動目標としましたが、

今年度はより具体的な行動目標を定めました。

確認行動

左右・部位確認

コミュニケーション

患者への検査結果の説明

2015.4.23

【具体的な行動を通じて確認を習慣化する】

	左右・部位確認強化	患者に検査結果を説明する
行動目標1	オーダー時：左右・部位確認ヨシ！	オーダー時：医師「検査結果は次回説明します」
行動目標2	患者と一緒に：左右・部位確認ヨシ！	検査時：検査担当者「結果は医師から説明します」
行動目標3	検査・処置時：左右・部位確認ヨシ！	予約診療時：医師「検査結果をまず説明します」

こんな場面で使ってみよう・・・

検査用紙を渡す際に・・・

結果は次回の外来時に説明します。
必ず受診してください。

検査終了直後に・・・

今日、受けてもらった検査の結果は、医師から説明があります。予約は入っていますでしょうか？確認してくださいね。

「正常結果を伝えない」
「異常のときだけ伝える」

ことが習慣になると、
「連絡がない」＝「異常がない」
と患者は考えます（認知心理学的に説明できる事象です）。

京大病院では、「結果が異常であったのに伝えず、治療が遅れ、患者に有害事象が発生した事例」が、この4年間に3件ありました。ベテランの医師でもエラーを起こします。いずれも医療ミスと認めています。

